

大阪消防

特集 安全統括隊 運用開始
FRONT LINE
派遣者に聞きました!!



令和8年

7

No.916

月号

CONTENTS

大阪消防 7

表紙：安全統括隊 発隊

01：コンテンツ／災害概況	24：We are Rookies！
02：特集 安全統括隊 運用開始	26：大阪の消防NEWS
04：【職務】第73回 消防職員意見発表会	28：第46回 危険業務従事者叙勲
06：FRONT LINE	30：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより
08：派遣者に聞きました！！	31：大阪府消防表彰式／アニマル環状線
10：共に学び共に成長	32：落語DE火の用心
12：緊急消防援助隊NEWS	33：PCHOWTO
14：コマンドアイ	34：実録！！調査鑑識
16：夏の夜空に光の余韻を	36：人材育成のヒント
18：ケイボウタイムズ	37：健康ダイアリー
20：明日に備えて過去に学ぶ	38：現場に活かす！救急救命士国家試験問題
21：ソナエの教室	39：消防漢字ガール
22：救急いろは	40：救急安心センターおおさかだより／編集後記

令和8年 大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
5月中合計	2	0	5	30	37	3	0	0	13	53
令和8年 5月末累計 (1～4月)	7	10	50	172	239	16	0	1	45	301
令和7年 5月末累計 (1～4月)	12	8	79	173	272	11	0	0	40	323
累計比較	▲5	2	▲29	▲1	▲33	5	0	1	5	▲22

◎救急概況

	救急出場
5月中件数 (概数)	21,022
令和8年 5月末累計 (1～4月)	102,957
令和7年 5月末累計 (1～4月)	107,618
累計比較	▲4,661

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他
令和8年 5月末累計 (1～4月)	1,950	612	1	525
令和7年 5月末累計 (1～4月)	1,847	536	0	536
累計比較	103	76	1	▲11

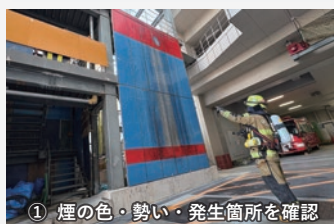
巡回研修

屋内進入時の安全確認ルールの徹底

安全評価5項目

警防活動基本計画第21条
「屋内進入」の更新内容を
基盤とし、安全行動に直結
する項目を選定したもの。

①～② 屋内外の環境を目視 & 熱画像直視装置で確実にリスク確認



① 煙の色・勢い・発生箇所を確認



② 熱画像直視装置等の活用

③～⑤ 有事の際に確実に退出するための措置



③ 個人装備の確認、小綱等による確保



④ 退路の周知・複数退路の設定



⑤ 進入報告

危険箇所の事例研修

災害現場で抽出したリスクを集約・分析し、消防署への巡回や研修資料により共有します。



外壁の崩落



軒先の崩落危険

訓練

危機回避行動習熟訓練

危機的な状況に
陥った際、自らの
命を守るための
行動を習熟する
訓練を行います！



即時介入訓練

消防職員が危機
的な状況に陥っ
た際、組織的に
隊員を救出する
ための訓練を行
います！



3

おわりに

安全統括隊は、隊員一人ひとりの尊い命を守り抜くための
取組を、消防署と一体となって推進してまいります。
皆さま、よろしくお願い致します！

安全統括隊
運用開始

1

創設の経緯

令和7年8月18日の大阪市中央区ビル火災において殉職事故が発生し、大阪市消防局は、2名の尊い仲間を失いました。

すべての人命を守り抜く使命を持つ組織として、私たちは、この悲しみと教訓を組織の礎として心に刻み、いかなる場合も安全を最優先とする組織風土への転換を図らなければなりません。その取組の一環として、災害現場における消防部隊の安全管理の統括及び支援を行うために、令和8年4月に安全統括隊を警防部に創設し、運用を開始しました。

2

安全統括隊の任務

安全統括隊は、職員の重大事故を防ぐため、災害現場でのリスクを確実に把握し「事故の未然防止」、万が一隊員が危機的な状況に陥った際の「組織の総力をあげて隊員を救出する体制構築」、リスクを監察・分析し「データを活かした安全管理能力の強化」などに取り組みます。

具体的には、警防部に10名を配置し、当務は3名体制とし、隔日勤務により災害現場対応等を行います。

また、災害現場への出場、年間を通して実施する巡回研修や訓練を主な任務とします。

災害現場への出場は、第2出場以上などの炎上火災や、トンネル内での事案（救急事案除く）、個別に出場・警防計画が樹立されている特異事案や対象物での災害、その他必要と認められる場合に出場します。



災害現場への出場

通常の災害現場での活動

災害現場では幕僚として現場最高指揮者を支援し、主に「リスク評価・分析」を担います。

具体的には、各活動隊や安全管理隊と連携し、現場全体のリスクを確認し、注意喚起・助言・是正を行います。

また抽出したリスクは分析を重ね、フィードバックを行ってまいります。

即時介入活動

消防隊員が行方不明や脱出不能などの危機的な状況に陥った際には、消防隊員の救出のため、安全統括隊が指揮を執り、組織的に救出活動にあたります。

森山 隆己 消防士 にうかがいました！

- Q1** このテーマを取り上げた理由をお聞かせください。
- A1** 技術が進歩し、様々な資器材が支給される中で、自身の命を守るのに一番大切なものは何かと考えたときに、実現場での自身の体験から、コミュニケーションの重要性をたくさんの方に伝えたいと考えたからです。
- Q2** 先輩の声かけから学んだ「良いコミュニケーションのコツ」を一つ挙げてください。
- A2** 日常生活の中で、誰に対しても壁を作らず積極的に話しかけることと、相手の話を真剣に聞くことが互いの信頼関係を築き、良いコミュニケーションに繋がると思います。
- Q3** 今後、現場で意識して磨いていきたい「声かけ」のイメージがあればお聞かせください。
- A3** 私自身が先輩の声かけで救われたように、現場経験の浅い若手職員の気持ちを落ち着かせ、安心させられる声かけができるよう、コミュニケーションスキルを磨いていきます。
- Q4** 将来、あなたが後輩に声をかける立場になったとき、どんな言葉で「安心」と「冷静さ」を渡したいですか。
- A4** まずは「おい！大丈夫か！」から始めたいと思います。
- Q5** 最後に、最優秀賞を受賞されて一言お願いします。
- A5** 私が最優秀賞という結果を頂けたのは、発表の練習や拙い文章の添削など、ご協力くださった所属の皆様のおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。これからも、自分自身と仲間の命を守るためのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

火災現場では、状況は常に変化し、次々と判断が求められます。そんな状況にあっても、仲間の一言が判断を後押しし、焦りを抑え、行動の軌道修正を促してくれます。私も活動をする中で、気づいたことがあれば積極的に小隊長に進言したり、共に活動する隊員への声かけを心がけるようにしています。

最後に、言葉は目には見え、形のないものですが、仲間の心を支え、判断を助け、行動の精度を高めてくれます。その関係を築くためには、訓練や現場だけではなく、日常生活の中での挨拶や報告、連絡や相談といった積み重ねが大切です。その積み重ねこそが、コミュニケーションという見えない装備を磨き上げてくれます。

そしてそれが、自分自身と大切な仲間の命を守り、最終的には消防の使命である、市民の生命を守ることに繋がると、私は信じています。

第73回 消防職員意見発表会

令和8年2月17日、西消防署講堂において第73回消防職員意見発表会が開催されました。ここでは、最優秀賞を受賞した、森山 隆己 消防士（平野消防署 消火隊）の発表内容をご紹介します。

最優秀賞



その一言が命を守る

平野消防署 消火隊 消防士
森山 隆己



発表会当日の
音声はこちら

消防の現場には、ヘルメットや防火衣、空気呼吸器等、身を守るための装備が欠かせません。しかし、私たちにはもう一つ、目には見えないが確かに存在し、事故を防ぎ、命を守る力を持っている装備があります。それはコミュニケーションです。

火災現場では、隊員同士の情報共有が極めて重要です。煙に包まれ、視界が遮られる中で、安全な退避経路や要救助者の位置を把握するためには、明確かつ端的な言葉のやり取りが求められます。

もし、情報が曖昧なまま活動に入ったり、重要な情報の伝達が遅れたりすれば、活動が滞るだけではなく、隊員自身の危険にもつながります。

また、コミュニケーションは、単に情報を伝える手段ではありません。隊員同士の信頼を築き、判断を支え、心理的な安全と安心をつくる力でもあります。

すなわち、「コミュニケーションとは「命を守るための見えない装備」だと言えるのです。

私には以前、ある火災現場で、コミュニケーションの重要性について強く実感する出来事がありました。それは、鉄筋コンクリート造集合住宅で発生した火災で、猛烈な熱気が室内にこもっており、屋内進入していくのが難しい現場でした。

ホースを持って室内に一步入った瞬間、防護面としこる越しにも伝わるほどの熱気が押し寄せ、初めて感じるその強さに、私は恐怖心から一瞬足が止まってしまいました。

その時、一緒に進入していた先輩が後ろから「森山、大丈夫か！ 落ち着いて行けよ、この熱気ならまだいけるぞー」と声をかけてくれたのです。

その声を聞いた瞬間、不安と緊張でいっぱいになっていた私の頭の中がスッと冷静になり、再び前に進む気持ちが湧いてきました。熱気は依然として激しく、状況も楽ではありませんでしたが、先輩の一言のおかげで私は安心して活動することができました。あの時の声があれば、活動が遅れていたたり、不用意な危険を招いていたかもしれません。

西消防署

はたらく車大集合！



4月4日(土)の朝、イオンモール大阪ドームシティ広場にて、親子で楽しめる企画を実施しました。

警察、自衛隊、消防のはたらく車に見て・触れて・乗っていただき、写真撮影や啓発品をお渡しするなど、楽しい休日の朝になるよう工夫をしました。

当日は雨模様でしたが、今後も楽しい企画で地域に寄り添う親近感溢れる消防をアピールすることで、区民の防災意識向上に貢献していきます。

浪速消防署

火災予防運動やイベントで大活躍



浪速消防署に配置されているビジョンカーをご存じですか？

管内にある(株)TS様からご寄付いただいたもので、2025年6月から運用を開始し、「EXPO2025大阪・関西万博」や各区の区民まつりでも活用されています。静止画だけでなく動画も再生できるので、使用方法はさまざまです。

浪速消防署では春、秋の火災予防運動期間中の広報活動で使用しました。使用希望のご相談は、浪速消防署地域担当までご連絡ください。



次回は、此花、港、西淀川、淀川、東成、生野、住之江、住吉の8消防署の様子をご紹介予定です。どうぞご期待ください。



天王寺消防署

100年、安全・安心を守り続けて



天王寺消防署は大正15年の開設以来、本年で100周年という大きな節目を迎えます。これまで地域の皆様に支えられながら、幾多の災害に出場し安全・安心の確保に努めてきました。現在も多様化・複雑化する災害に的確に対応するため、訓練の充実や地域連携の強化を図ってまいります。

100周年を迎えるにあたり、天王寺消防署のキャラクター、のぼり旗、ポケットティッシュ、トートバックなどの啓発品の作製や、市民の皆様に喜んでいただけるイベントを考えています。

地域とともに守り継ぐ未来の絆を礎に、より一層信頼される消防署を目指します！

阿倍野消防署

最高の一枚、飾ってます



阿倍野消防署では毎年2回、人事異動時に各担当で写真撮影をしています。

撮影された写真は阿倍野区内小学生の防災図画等の作品とともに、阿倍野消防署内の廊下に花を添えるように張り出されています。4月の人事異動時の写真は満開の桜を背景に職員全員が笑顔で撮影した写真です。

これからの阿倍野消防署を輝かせる最高の1枚です！

FRONT LINE

—— 消防署の“いま”を伝えます ——

大阪市内25署の最新の取り組みや近況をご紹介します。

北消防署

オンライン活用でサービス向上



北消防署では、窓口混雑緩和及び市民サービスの向上を目的として、消防関係届出申請等のオンライン申請利用促進に取り組んでいます。待合スペースには、オンライン申請案内ポスターを掲示し、モニターで操作方法を案内する動画を流すとともに、来庁者へわかりやすい広報を実施しています。

この取り組みで、市民サービスの向上を図るとともに、職員が空いている時間に届出等を処理することができる、効率的な職場づくりを推進しています。

福島消防署

「暑さに慣れる」が命を守る！



夏本番となり、熱中症への警戒が必要な時期となりました。福島消防署では4月下旬ごろより暑熱順化トレーニングを通じて暑さに強い体づくりをすすめています。日ごろから汗をかくことで体を暑さに慣らし、段階的な運動と適切な水分補給を行い、安全な活動に備えています。ご家庭でも無理のない運動や入浴などで汗をかく習慣を取り入れ、熱中症予防を心がけましょう。

給を行い、安全な活動に備えています。ご家庭でも無理のない運動や入浴などで汗をかく習慣を取り入れ、熱中症予防を心がけましょう。

都島消防署

ここが私のフロントライン



4月より都島消防署の予防担当として着任しました。前任署では警防担当として消火・救急業務に従事し、現場活動を通じて市民の状況に応じたきめ細かな対応、とりわけ女性への配慮を含めた寄り

添いの重要性を学びました。

今後はこの経験を予防業務にも生かし、一人ひとりにわかりやすく丁寧な説明を心がけていきます。上司・先輩方のご指導を受けながら、関係法令や手続きを確実に習得し火災の未然防止のフロントラインとして日々取り組んでいきます。

中央消防署

より高みを目指して



国内最大級のはしご車が中央消防署に配備されました。

地上最大高54.7mであり、ビル18階相当の高さまで到達でき、大阪府内で配備されているのはこの1台だけです。高層ビルでの人命救助はもちろん、上部からの放水による

効率的な消火活動などで性能を発揮します。また従来の車両から、バスケットストレッチャーの取付要領が変更となり、要救助者の救出がより迅速に行える仕様となっています。